

# 第3次札幌市生涯学習推進構想

## (令和4年度実施報告)

## はじめに

札幌市においては、時代の変化等に対応した生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を整理し、関連する施策を総合的・計画的・体系的に進めていくことを目的として、平成29年(2017年)3月に第3次札幌市生涯学習推進構想を策定しました。

本計画では、実施状況について、内部委員会である「札幌市生涯学習総合推進本部」が把握し、構想の推進に必要な事項の検討調整を行うとともに、毎年度ホームページ等で適宜公表することとしています。

### 施策体系

基本施策		施策の方向性		施策の展開	
基本 施策 Ⅰ	学びを生かして 未来を創造する 人づくり	1	各世代のニーズに応じた 学びの推進	1	乳幼児期からの育ちを支える学びの充実
				2	青少年期を育む学びの充実
				3	成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実
				4	高齢期を豊かに過ごす学びの充実
		2	多様な学習機会の提供	5	現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実
				6	スポーツ・健康に関する学びの充実
				7	文化芸術に関する学びの充実
				8	ふるさと札幌に関する学びの充実
				9	就労へ向けた学びの充実
				10	まちの活力を高める学びの推進
3	社会で活躍できる力を 育む学びの推進	11	学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実		
		12	地域と学校が連携する取組の推進		
基本 施策 Ⅱ	学びで育む つながりづくり	4	多世代が関わる学びを 通じた絆づくりの推進	13	地域づくりに向けた学びの推進
				14	学んだ成果を地域で生かす取組の充実
		5	学びを地域づくりに生かす 取組の推進	15	学び直しなどを支える環境づくり
				16	全ての人に開かれた学びの環境づくり
基本 施策 Ⅲ	学びを支える 環境づくり	6	いつでも学べる環境づくり	17	情報提供・学習相談体制の充実
				18	学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開
				19	学びをコーディネートする人材の育成・活用
				20	身近な地域で学びを深められる環境の整備
		7	まちのどこでも学べる 環境づくり	21	時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化
				22	多様な主体が連携した学びの場づくり

### 基本施策ごとの実施状況

今回の実施報告では、これまでに調査した関連事業を中心に、令和4年度の実施結果と、今後の取組の方向性を取りまとめました（事業総数221事業（再掲有））。基本施策及び施策の方向性ごとに実施状況を総括し、それぞれ関連する事業例を取り上げています。

### 本構想の今後の推進について（構想の中間評価）

本構想では下記の成果指標を設定し、札幌市の生涯学習施策を推進してきました。

計画期間（平成29年度（2017年度）から概ね10年間）の中間年を経過した令和4年（2022年）に札幌市民を対象に行った「第3次札幌市生涯学習推進構想に係るアンケート調査」においては成果指標としている「生涯学習をしている人の割合」が前回調査結果（平成27年（2015年））よりも良好な結果となり、令和7年（2025年）の目標値を上回りました。

一方、同じく成果指標としている「現在の学習や活動環境に満足している人の割合」は、前回調査からの微増にとどまっており、目標値までは開きがある状況です。理由としては「時間の不足」という主に個人的な理由に次いで、「身近な地域に学習や活動できる場が少ない」という理由が高い割合を占めていたことから、本構想で重点施策に掲げている「身近な地域で学びを深められる環境づくり」に引き続き取り組んでいくことが重要と考えます。

指標	平成27年 (2015年) 調査結果	令和4年 (2022年) 調査結果	令和7年 (2025年) 目標
生涯学習をしている人の割合	58.6%	68.1%	65.0%
生涯学習をしている人の中で、現在の学習や活動の環境に満足している人の割合	55.4%	57.2%	70.0%

## 基本施策Ⅰ 学びを生かして未来を創造する人づくり

DXの進展や少子化・人口減少や高齢化をはじめとした社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化する課題を、市民一人ひとりが解決していく力を養っていくことが求められている。

基本施策Ⅰにおいては、個人の自立と共生に向けた多様な学びの機会の提供をさらに進めるとともに、学んだ成果を生かし、主体的に社会に参画し、活躍できるよう支援するため、関連事業として計151事業（再掲含）を実施した。特に、重点施策である「施策の展開10 まちの活力を高める学びの推進」の主要事業であるさっぽろ市民カレッジを中心に、それぞれのライフスタイルや関心事に合わせた各種取組により、市民の主体的な学習活動を推進した。

### 施策の方向性1 各世代のニーズに応じた学びの推進

#### 【今年度の取組結果】

各世代の市民が、年齢やそれぞれのライフスタイルに応じて学べる機会を提供した。

家庭における教育力向上のために保護者が自ら学ぶ機会を提供したり家庭教育の重要性について啓発に取り組んだ。また、企業等による、ものづくりの楽しさややりがいなど魅力を発信するイベントや職業体験の機会を提供したほか、高齢者がICTリテラシーを身に付けるための講習会などを実施した。

#### 【今後に向けて】

世代や地域の特性など踏まえ市民ニーズに即した事業を展開するとともに、オンライン開催など新型コロナウイルス感染症拡大時に取り入れた手法も生かしながら事業を実施するなど、より多くの市民に学習機会を提供できるよう、工夫に努めていく必要がある。

### 施策の展開

#### 1 乳幼児期からの育ちを支える学びの充実

#### 14 事業

##### 〔事業例〕 家庭教育事業

市内幼稚園や小・中学校を会場に、子どもの心や体の理解・親の役割などについて自主学習する場として家庭教育学級を80回開催し、1,721人が参加した。また、家庭教育の重要性について意識啓発を図るため、乳幼児の

保護者を対象に講座を行ったほか、仕事を持つ保護者等も参加しやすいようオンライン配信による講演会を実施し、5,365回視聴された。さらに、自宅で気軽に家庭教育について学べるよう、ホームページの充実を図り、延べ24,746人が閲覧した。

## 2 青少年期を育む学びの充実 23 事業

### 〔事業例〕 ジモトのシゴト ワク！WORK！

札幌市内のものづくり企業等による、高校生を対象とした「ものづくり体験イベント」を、3日間、つどーむにて開催し、42企業・団体が出展、6,815名の高校生が参加した。

## 3 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実 11 事業

### 〔事業例〕 社会体験機会創出事業

ひきこもりやニート等、困難を有する若者の職場体験や、ボランティア体験等の受入先となる企業を、令和4年度は新たに67企業・団体開拓し、319人に社会体験機会を提供した。

## 4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実 13 事業

### 〔事業例〕 デジタル活用支援講習会

デジタル活用の理解やスキルの習得が進んでいない高齢者を対象に、民間事業者と連携しながら、オンライン行政手続きの利用方法等を学ぶ講習会を開催した。市内10区の区民センターや地下歩行空間、まちづくりセンターで合計62回実施した。

## 施策の方向性2 多様な学習機会の提供

### 【今年度の取組結果】

社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化する課題に対応するための様々な学習機会の提供に取り組んだ。

多くの人々が避難場所の運営をできるよう、市立小中学校における避難場所運営時に必要な知識や対応方法を習得できる研修会を行った。また、市民の文化芸術への関心を高めるとともに文化活動の担い手育成を図ったほか、子どもたちが札幌の特色を生かしたスポーツを体験できる機会の提供や、札幌の雪対策など冬の暮らしに関心を持てるような学習を実施した。

## 【今後に向けて】

多くの市民が主体的に参加できるよう、スポーツや文化・芸術など、生涯学習の入り口となるような、親しみやすい分野の学びを拡充していくほか、社会の課題の解決につながる講座などを引き続き実施し、新型コロナウイルス感染拡大以前の実施規模での学びの機会を提供していく必要がある。

## 施策の展開

### 5 現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実 20 事業

#### 〔事業例〕 避難場所運営研修

区職員、学校職員及び地域住民の3者を対象として、避難場所運営時に必要な基本的知識と初動の対応方法を習得できるよう、市立小中学校を会場に、新型コロナウイルス感染症の対応を取り入れた避難所開設の説明や、受水槽・防災行政無線の取り扱い及び備蓄物資の確認等を行う研修会を60回実施し、1,116名が参加した。

### 6 スポーツ・健康に関する学びの充実 20 事業

#### 〔事業例〕 ウィンタースポーツ塾

ウィンタースポーツの裾野の拡大と競技力の向上を図ることを目的に、小学生を対象とした、ウィンタースポーツを幅広く体験できる機会を提供し、1,400人が参加した。

### 7 文化芸術に関する学びの充実 20 事業

#### 〔事業例〕 パシフィック・ミュージック・フェスティバルの開催

若手音楽家に対する教育や演奏の機会を設けるとともに、市民が優れた音楽に触れる機会を提供した。開催期間18日間で25公演を実施し、20,754人が来場した。

### 8 ふるさと札幌に関する学びの充実 10 事業

#### 〔事業例〕 雪と暮らすおはなし発表会

将来のまちづくりを担う子どもたちが、札幌市の雪対策や冬の暮らしなどについて学び、動画の作成や、壁新聞、写真等の作品などで成果を発表する機会を提供した。動画や作品はホームページ上で公開したほか、札幌駅前地下歩行空間でも展示し、3,007名が来場した。

## 施策の方向性3 社会で活躍できる力を育む学びの推進

### 【今年度の取組結果】

市民が主体的に社会に参加し、活躍することができるための学びの推進に取り組んだ。

子育てと仕事の両立を目指す女性に対する就職支援を通じ、生きがいをもって生き生きと暮らす社会の実現に向けて取り組んだほか、市民がまちづくりの主役として、社会の様々な場面で力を発揮できるよう、多様な分野で研修や講座の充実を図り、社会的課題の解決など、まちの活力を高める学びの推進に取り組んだ。

### 【今後に向けて】

様々なニーズに応じた講座内容・支援メニューの提供とともに、広報の強化などを図り、より多くの市民が学びに参加し、また、学んだ成果を生かせるような機会を充実していく必要がある。

## 施策の展開

### 9 就労へ向けた学びの充実 10 事業

#### 〔事業例〕 女性の多様な働き方支援窓口運営事業

子育てをする女性の就職や就労を支援するため、キャリアカウンセラーによる相談を行ったほか、在宅ワークに活用可能なスキルを習得できる講座を新たに実施した。

### 10 まちの活力を高める学びの推進 **【重点施策】** 10 事業

#### 〔事業例〕 さっぽろ市民カレッジ

ボランティアや市民活動など、まちづくりを担う人材を育成するため、生涯学習センター等で「市民活動系」の講座を実施し、地域活動・まちづくりや福祉分野などの具体的な活動へつなげられるような講座を38講座開講した。

また、職業能力の向上や産業育成・活性化を促進する「産業・ビジネス系」の講座を36講座実施した。

## 基本施策Ⅱ 学びで育むつながりづくり

近年、高齢化・人口減少や自然災害、感染症の流行など様々な問題に直面する中で、人と人とのつながりの重要性が再認識されており、市民一人ひとりがお互いを信頼しながら地域づくりを行うことが求められている。

基本施策Ⅱにおいては、様々な場における多様な人々との学びや成果を生かす取組や次世代の担い手の育成などを通じて、社会との関わりや新たなつながりを創り出し、地域をはじめとする様々な場においてコミュニティを築いていくために、関連事業として計28事業（再掲含）を実施した。特に、重点施策である「施策の展開12 地域と学校が連携する取組の推進」を中心に、地域における学びの交流を通じたコミュニティの醸成に取り組んだ。

### 施策の方向性4 多世代が関わる学びを通じた絆づくりの推進

#### 【今年度の取組結果】

学びをきっかけとした人と人とのつながりづくりに寄与する取組を推進した。

市内の生涯学習施設をはじめとした様々な場で、人々が集まって共に学び、学習成果を発表する機会を設けたほか、世代間交流や地域住民同士の交流の機会を提供するなど、つながりづくりに寄与する取組を充実した。また、学校図書館を活用し、読書活動などを通じて大人と子ども、大人相互の交流の場を広げ、学校・家庭・地域が連携する取組を推進するとともに、地域の教育力の向上につなげた。

#### 【今後に向けて】

人と人とのつながりづくりをより一層進めていくため、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により減少したと思われる地域住民同士のつながりや関わり合いの機会の提供や、世代を超えて互いに交流できる場の推進に、引き続き取り組んでいく必要がある。

### 施策の展開

#### 11 学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実

7事業

##### 〔事業例〕 世代間交流の支援

世代間交流や地域の交流の場づくりの推進のため、社会福祉協議会によるふれあい・いきいきサロンへの支援を実施し、年間で3,307回開催、延べ31,309人が参加した。

## 12 地域と学校が連携する取組の推進 **【重点施策】** 7事業

### 〔事業例〕 地域の拠点としての学校図書館活用事業

学校図書館を拠点として、学校・家庭・地域が連携し、地域の教育力の向上に役立てるため、市内小中学校120校の学校図書館で開放事業を実施し、ボランティア3,566名が運営に携わった。テレビ放送の活用や学年別での読み聞かせなど、学校教育と連携した行事を1,764回開催し、一般利用者の来館は延べ425,439人となった。

## 施策の方向性5 学びを地域づくりに生かす取組の推進

### 【今年度の取組結果】

市民の地域づくりへの主体的な参加意識を醸成し、市民が主役の活力あるまちづくりの促進に取り組んだ。

まちづくり活動に興味のある方や参加経験のある方を対象に、活動の担い手育成や参加のきっかけづくりに取り組んだほか、管理栄養士等を目指す学生を対象にボランティアの養成を行い、地域における様々なつながりを育む取組を推進した。

### 【今後に向けて】

複雑化・多様化する地域課題とそれに基づく市民ニーズを的確に把握し、地域に関わる団体や組織がそれぞれの強みを生かして連携できるような支援や、市民が実際に地域づくりに関わる活動の体験ができる講座を実施する必要がある。また、コミュニティ施設等の市民に身近な施設において市民や各団体が学んだ成果を地域で活用することを支援するとともに、その活用において生じた課題を解決するための学びを促進するなど「学びと実践の循環」を促すような機会を拡充していく必要がある。

## 施策の展開

## 13 地域づくりに向けた学びの推進 8事業

### 〔事業例〕 地域まちづくり人材育成事業

地域課題等の解決に必要なスキルを有する人材を育成するため、活動体験を含んだスタートアップ講座を1回、サポーター養成講座として、スキルアップ講座を3回実施し、計97人に、まちづくりを体験する機会を提供した。

#### 14 学んだ成果を地域で生かす取組の推進

6 事業

##### 〔事業例〕 食育学生ボランティア養成講座

食育学生ボランティアが、地域で活動を行うための基礎知識を習得することを目的に、オンラインにて養成講座を実施し、72人が参加した。

### 基本施策Ⅲ 学びを支える環境づくり

様々な理由から学習することに壁を感じていたり、学びたいという希望をかなえるのが難しいといった市民に対し、生涯学習するきっかけが得られるよう、誰もが学べる場を整備していくことが求められている。

基本施策Ⅲにおいては、市民がいつでも・どこでも自由に学んだり、活動したりすることのできる環境づくりを進めるために、関連事業として計42事業（再掲含）を実施した。特に重点施策である「施策の展開20 身近な地域で学びを深められる環境の整備」を中心に、身近な地域における学びや、市民自身が学びの場を創出できるような支援体制の充実に取り組んだ。

#### 施策の方向性6 いつでも学べる環境づくり

##### 【今年度の取組結果】

学びたい市民がいつでも学べる環境づくりの推進に取り組んだ。

就業していない保育士が復職を目指すための支援を行ったほか、不登校の子どもたちの学びや育ちの環境整備に取り組んだ。また、市民の多様な学習ニーズに応えるため、生涯学習センターにおいて、学習相談コーナーを運営するとともに、人材登録・紹介制度の活用を通じて、学習活動に役立つ情報の発信を行ったほか、学習ニーズへのきめ細やかな対応を図り、的確に市政情報を提供するため、各地域において各種出前講座の実施に取り組んだ。

##### 【今後に向けて】

市民が望む学習機会の在り方や情報の受け取り方の多様化に応えられるよう、対面やオンライン等様々な開催方式の検討や周知方法の工夫などに、引き続き取り組んでいく必要がある。

## 施策の展開

### 15 学び直しなどを支える環境づくり 4 事業

#### 〔事業例〕 保育士等支援事業

保育士の復職支援や、保育所からの求人へのマッチングなどを行う「保育人材支援センターさぼ笑み」を運営し、104人を採用へ繋げた。また、「札幌市保育園ミーティング（合同施設説明会・面接会）」を2回開催した。

### 16 全ての人に開かれた学びの環境づくり 4 事業

#### 〔事業例〕 子どもの学びの環境づくり事業

不登校児童生徒の社会的自立を目的として、フリースクールなどの民間施設12団体に対し、指導体制の整備や教材・活動体験等の充実に向けた取組を支援した。

### 17 情報提供・学習相談体制の充実 6 事業

#### 〔事業例〕 生涯学習センターにおける学習相談コーナーの運営

生涯学習センターにおいて、市民の多様な学習ニーズに応えるため、様々な情報に触れられる学習相談コーナーを運営し、ちえりあ市民講師バンクに登録している講師やサークル活動を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を発信した。講師バンクの登録者数は192人、市民の学習ニーズとのマッチング件数は41件となった。

### 18 学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開 7 事業

#### 〔事業例〕 出前講座

職員が地域に出向き、的確に市政情報を提供するとともに、市民と直接対話することを目的に、11分野207テーマで433回の講座を実施し、22,989人が参加した。

## 施策の方向性7 まちのどこでも学べる環境づくり

### 【今年度の取組結果】

市民自らの手による学びの場づくりや身近な地域で学びを深められる環境づくりに取り組んだ。

学んだ成果や自身の経験を生かして学びの場をコーディネートするボランティア人材の育成に取り組んだほか、図書館と連動した講座の企画・実施に取り組んだ。また、図書・情報館において、市民が抱える仕事やくらしの課題解決のための支援を実施した。

### 【今後に向けて】

生涯学習センターが、引き続き生涯学習の中核施設として、図書館やコミュニティ施設をはじめ、多様な主体との連携を図りながら、身近な地域において地域のニーズを踏まえた学びの機会を拡充していくとともに、地域のつながりの中で体験的に学ぶことができる環境づくりが必要である。

## 施策の展開

### 19 学びをコーディネートする人材の育成・活用 2 事業

#### 〔事業例〕 さっぽろ市民カレッジ（ちえりあ学習ボランティア）

さっぽろ市民カレッジの一環として、自身の経験や学んだ成果を生かして、講座内容の企画から運営を担う「ちえりあ学習ボランティア」による講座を15講座実施。ボランティア44人が関わったほか、講座は425人が受講した。

### 20 身近な地域で学びを深められる環境の整備 **【重点施策】** 10 事業

#### 〔事業例〕 「図書館との連携を核とした新たな生涯学習推進体制の方針」の推進

生涯学習センターと、生涯学習の「知の拠点」である図書館との連携を核とした生涯学習の全市展開の推進に取り組むこととし、市民が身近な地域で学びを深められる機会を拡充するため、さっぽろ市民カレッジにおいて、図書館連携講座を11講座開催した。

### 21 時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化 5 事業

#### 〔事業例〕 図書・情報館の建設・運営

就職・創業、健康など市民が抱える課題について、司書と相談窓口の相談員が協力して利用者の相談にあたり、資料や情報面から解決を支援するとともに、利用者グループの調べ物や交流を促進する空間を創出した。

## 〔事業例〕 ご近所先生企画講座

生涯学習センターが企画・運営するさっぽろ市民カレッジの一環として、学んだ成果を生かして活躍することを望む市民を広く募集し、各自の得意な分野をテーマに講師を務める講座を実施した。また、会場については、ちえりあのほか市内各地域の図書館や区民センターなど、受講者の身近にある施設を利用することにより、計76講座を実施し、965人が受講した。